

2024 年度 報酬改定対応

入浴介助加算 I・II 算定セット

<算定促進ツール・研修資料>

目次

◆各種パンフレット

- ・ケアマネジャー向け 2
- ・ご利用者・ご家族向け 4

◆スタッフ研修用資料

- ・入浴介助について 8
- ・入浴介助に役立つ資料 26
- ・入浴に関する福祉用具などについての資料 31

各種パンフレット

ご利用者・ご家族・ケアマネジャーへ入浴介助加算の目的や内容の理解、確認をしていただくための算定促進ツールです。参考資料としてご活用ください

・ケアマネジャー向け…………… 2

- ・当事業所では自立支援のため、「入浴介助加算(Ⅱ)」に積極的に取り組みます
- ・入浴介助加算(Ⅱ)について

・ご利用者・ご家族向け…………… 4

- ・ご自宅などでの入浴状況について
- ・ご自宅などでの入浴状況について～訪問日の調整のお願い～
※ご自宅に入浴環境のある方や、「ご自宅などでの入浴状況について」のアンケートで「入浴している」と回答された方への訪問日の調整にお使いください。
- ・「自宅のお風呂に一人で気持ちよく入る」を目指しませんか？

様

ご自宅などでの入浴状況について

当事業所では、ご利用者の生活の充実や自立支援に力を入れています。つきましては、よりよい入浴支援介助のためご自宅などでの入浴状況について下記にご回答いただきますようお願いいたします。

1. 現在のご自宅などでの入浴状況を教えてください いずれかに○を付けてください。

〔 自宅などで入浴している ・ 入浴していない 〕

「自宅などで入浴している」と答えた方(「していない」と答えた方は 4.へ進んでください)

2. どのように入浴されていますか いずれかに○を付けてください。

〔 一人で入浴している ・ 家族の介助で入浴している ・ 訪問介護などのサービスを利用している 〕

3. 困っていることがあれば教えてください

「入浴していない」と答えた方(「している」と答えた方は終了です)

4. 入浴していない(もしくはできない)のはなぜですか いずれかに○を付けてください

〔 浴室環境が現在のご自身の状態に合っていない ・ 一人で入れない(介助者がいない)
その他() 〕

〇〇デイサービス 担当:〇〇

TEL:〇〇〇〇〇〇〇〇

ご自宅などでの入浴状況について～訪問日の調整のお願い～

当事業所では、ご自宅などでの入浴(ご自身またはご家族、その他介護サービスによる入浴)ができるよう入浴介助に取り組んでいます。つきましては現在の入浴状況を伺い、ご本人の力を生かした介助方法や入浴動作の一部自立、ご自宅での入浴を支援するため、現在のご自宅での入浴状況を確認させていただければ幸いです。

下記に、訪問可能な日時をお知らせください。ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。お知らせいただきました希望日時を基に改めてご連絡いたします。

<訪問可能日時>

希望①	日にち	月	日	曜日
	時間	時ごろ		
希望②	日にち	月	日	曜日
	時間	時ごろ		
希望③	日にち	月	日	曜日
	時間	時ごろ		

〇〇デイサービス 担当:〇〇
TEL:〇〇〇〇〇〇〇〇

スタッフ研修用資料

必要に応じてスタッフの研修用資料としてお使いください

- ・入浴介助について…………… 8
- ・入浴介助に役立つ資料…………… 26
- ・入浴に関する福祉用具などについての資料 …… 31

入浴介助について

1. 入浴の意義・目的とその効果をもつて高める工夫……………	9
2. 入浴における個人差 ……………	9
3. 入浴介助について ……………	11
4. 基本の介助技術……………	13
5. リスクマネジメント ……………	21

1. 入浴の意義・目的とその効果をも高める工夫

入浴は、体の清潔を保ったり、気分を和らげてくれるだけでなく、全身の血流を良くし、疲労を回復する効果などもあります。入浴の意義・目的と効果をも高める工夫は、以下の通りです。

意義・目的		工夫
清潔保持	清潔保持・体臭予防	見えにくいところや隠れた部分(乳房の下、 <small>えきか</small> 腋下、陰部、指の間など)まで洗う
リラックス効果	気分や筋緊張の緩和	アロマや音楽の活用、湯の温度を少し下げるなど
<small>とつづ</small> 疼痛緩和	温熱効果による疼痛を緩和	入浴中・入浴後のマッサージ、入浴後の湿布、リラックスする など
循環促進	温熱効果による末梢血液の循環促進	保温効果のある入浴剤を使う、ゆったりと入る、室温を上げておく など

2. 入浴における個人差

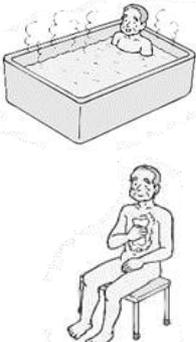
入浴には個人差があります。個別ケアでは、個別性を大切に、それぞれの人に合わせたケアを実施します。個別性の例としては以下のようなものがあります。ケア提供時の参考にしてください。

①温度の好み…好みのお湯の温度はどれくらいですか？(低め・高め)

②浴槽での状態…どこまでお湯につかりますか？

半身浴	肩までつかる	首まで	シャワー
			

③入浴時のパターン

パターン1	パターン2	パターン3
湯船に入る ↓ 身体を洗う ↓ 湯船に入る	身体を洗う ↓ 湯船に入る	湯船に入る ↓ 身体を洗う
		

④洗う順番…どこから洗いますか？(頭から、顔から、腕から、足からなど)

頭から	顔から	右腕から
		
左腕から	右足から	左足から
		
胸から	おなかから	陰部から
		

3. 入浴介助について

入浴に求めることは、人それぞれです。各利用者が入浴で何を大切にしているか、何を求めているのかを把握し、利用者のニーズに合わせた工夫が必要です。また、入浴時は裸になるため、羞恥心や遠慮などへの配慮が必要です。

(1) 羞恥心などへの配慮

入浴では裸になるため、本人の羞恥心に配慮し、陰部など、本人が見られると不快に感じる場所はタオルで隠すなどの対応をします。また、職員の不用意な発言(身体的な特徴への発言など)が、本人を傷付けてしまうこともあります。本人の気持ちを尊重し、心身の負担を軽減する対応を行うことが基本です。



(2) 体調確認、心身状況の確認

入浴は、脱衣室と浴室間の移動、お湯に入ることなどによる激しい温度変化に加え、汗をかくことによる脱水のリスク、水圧がかかるなど、体への負担の大きい行為です。そのため、入浴前の体調確認、バイタルサインチェックは入念に行いましょう。

また、裸になる行為なので、全身の皮膚の状態を観察しやすいタイミングです。本人の尊厳保持、プライバシー保護に留意しながら、入浴の機会を利用して、全身のチェックを行いましょう。

(3)お湯の温度への注意と室内環境の調整

①お湯の温度に気を付ける

熱湯による事故は毎年何件も発生し、死亡事故もほぼ毎年発生しています。

死亡事故では、機械の故障によって表示は適温だったにもかかわらず、実際の湯温が熱湯になっており、介護者が気付かず、全介助の利用者を入れて死亡させたケースや、熱湯のシャワーを浴びせ死亡させたケースもあります。

温度確認は2人で



熱湯事故は、頻発事故の一つです。必ず、職員が直接温度を確かめ、その後で本人に確認してもらいましょう。

②部屋の温度に気を付ける

冬場に室温が低いと、血圧が上がって心臓病や脳卒中を誘発し、室温が高すぎると身体表面への血流移動が強化され、入浴後低血圧(身体表面の血流が良くなり、脳血流が減って失神することもあります)を誘発しやすくなります。

脱衣室も適温に



脱衣室を温かくし過ぎると、入浴で身体表面に流れていた血液量がさらに増大し、湯のぼせ(入浴後低血圧)を誘発するので注意しましょう。
脱衣室は適正温度に保ち、入浴前に水分摂取をしておきましょう。

③物の温度(壁・床・イスなど)に気を付ける

入浴中は裸のため、冷たい壁、床、イスなどに体が当たると、とても不快に感じます。あらかじめ湯で温めておいたり、乾いたタオルを使ったり、介助者も手を温めてから触れるなどの配慮をしましょう。